

2027年2月期

中間期決算発表説明会

2026年10月13日(火)

イオン北海道株式会社
(証券コード7512)

Agenda

01
2026年度
上期の業績

02
2026年度
上期の取り組み

03
2026年度
下期の取り組み

04
業績予想

01
2026年度
上期の業績

02
2026年度
上期の取り組み

03
2026年度
下期の取り組み

04
業績予想

増収減益

- 売上高は前年に引き続き**過去最高を更新** DSが伸長
- 利益面は営業総利益が想定割れ

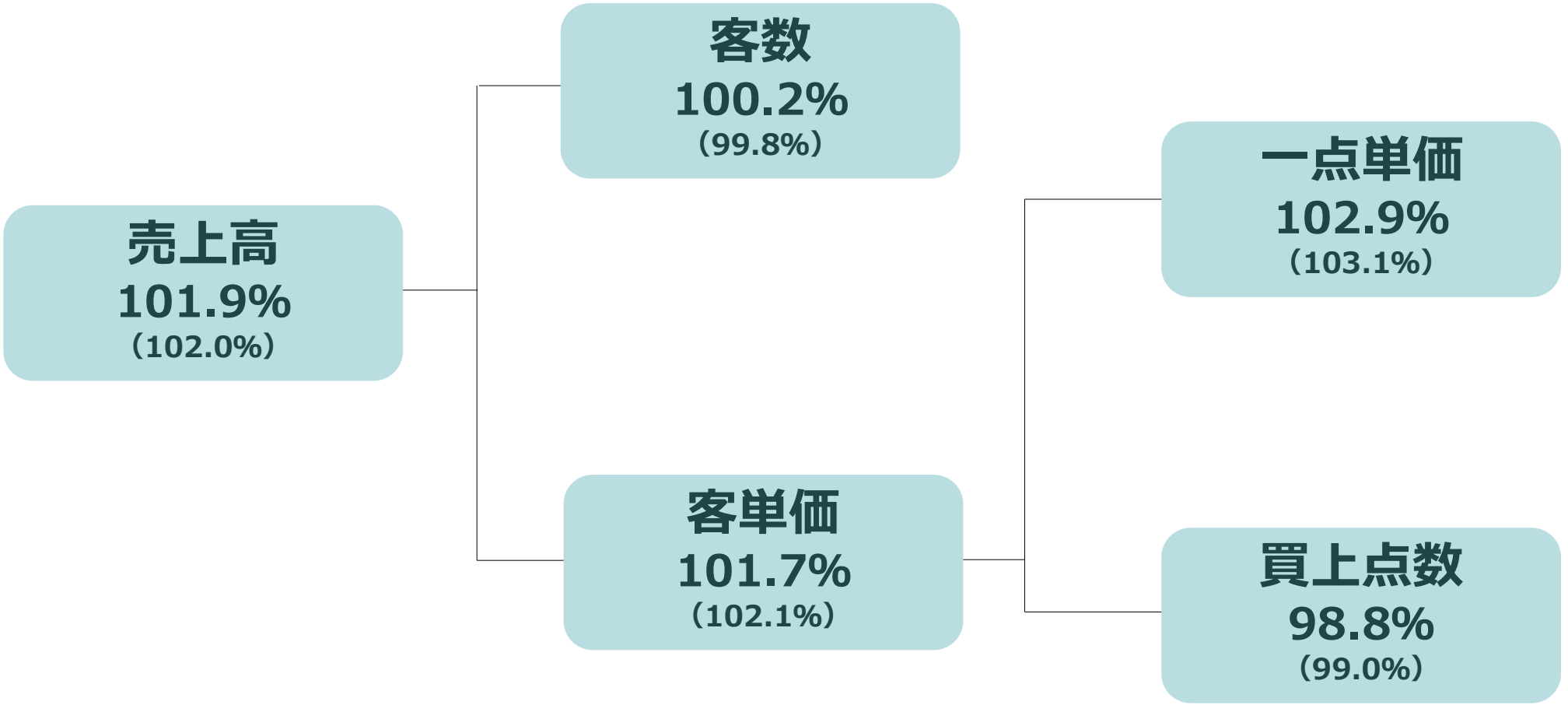
単位：百万円

	実績	前年同期差/比	前年同期比
売上高	188,263	+2,316	101.2%
営業総利益高	58,225	+191	100.3%
営業利益	1,517	▲946	61.6%
経常利益	1,300	▲981	57.0%
中間純利益	85	▲1,105	7.2%

1.2026年度上期の業績 【既存店売上高　客数・客単価実績】

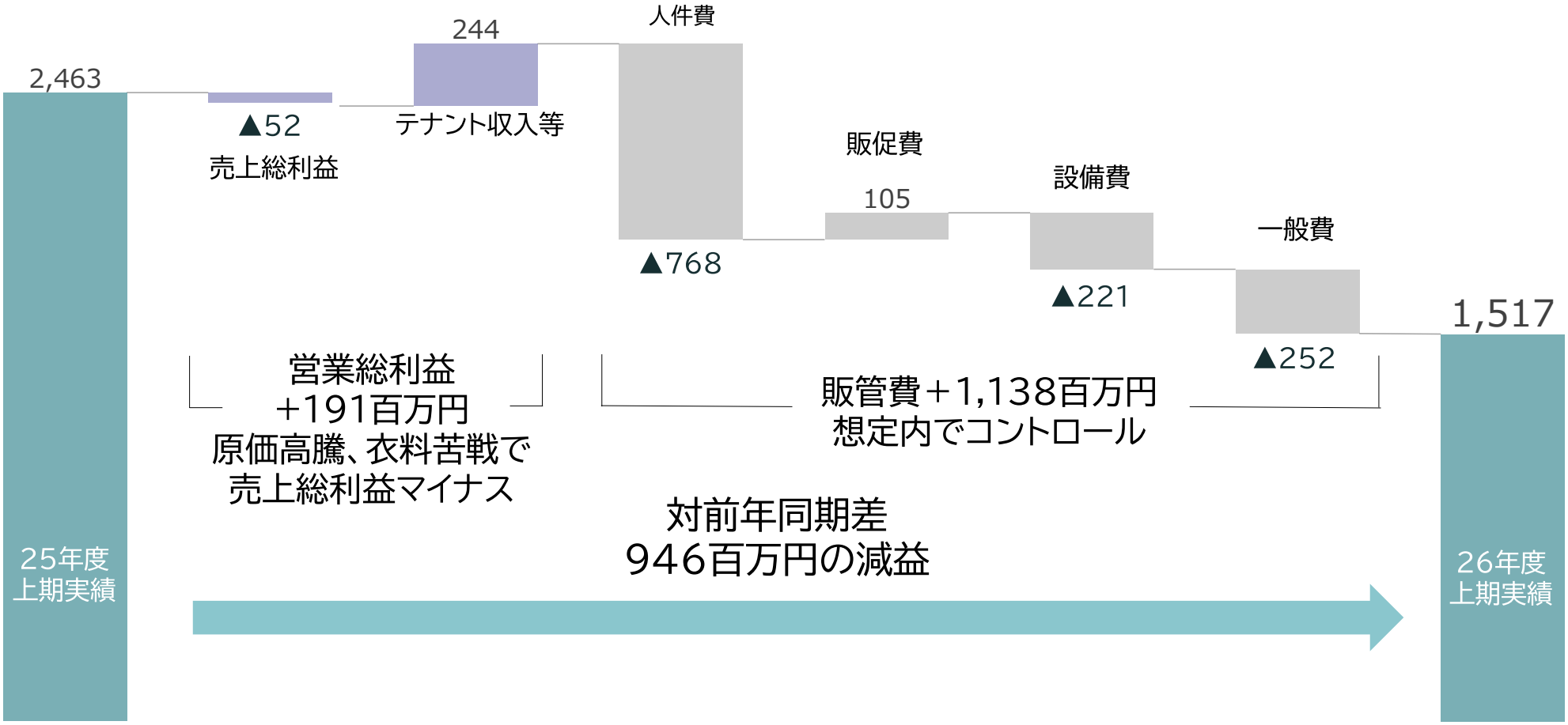
客数、客単価いずれも伸長し売上高前年同期比101.9%

※当社管理会計データ　カッコ内は前年同期実績



1.2026年度上期の業績 【営業利益 前年同期比較】

価格競争力確保に伴う荒利率の低下等により営業総利益が伸び悩み、946百万円の減益



1.2026年度上期の業績 【販管費】

販管費は海外情勢悪化による影響を当初から見込み
計画以上に削減(計画比98.3%)

単位:百万円

	2026年度上期			2025年度上期	
	実績	売比	前年同期比 既存比	実績	売比
人件費	26,268	14.0%	103.0% 103.3%	25,499	13.7%
販促費	6,284	3.3%	98.4% 98.7%	6,389	3.4%
設備費	19,261	10.2%	101.2% 100.9%	19,039	10.2%
一般費	4,893	2.6%	105.4% 105.6%	4,640	2.5%
販管費合計	56,707	30.1%	102.0% 102.2%	55,569	29.9%

1.2026年度上期の業績 【業態別売上高前年同期比】

各業態1Q、2Qとも売上伸長　DS業態が堅調に推移

単位：百万円

	売上高実績	前年同期比	既存店 前年同期比	1Q	2Q
GMS事業	102,946	101.6%	101.6%	103.1%	100.1%
SM事業	54,888	100.6%	102.1%	102.2%	102.1%
DS事業	33,679	103.0%	103.0%	103.2%	102.8%

※　「GMS事業」…総合スーパー（SuC含む）、「SM事業」…スーパーマーケット事業、「DS事業」…ディスカウント事業
※　既存店売上高前年同期比については、2025年度以降の新店、閉店店舗を除く

1.2026年度上期の業績 【ライン別　既存店売上高前年同期比】

食品の伸長が全体を牽引し、既存店売上は前年同期比101.7%と増収を確保

単位：百万円

	売上高実績 （売上構成比）	前年同期比	既存店 前年同期比	1Q	2Q
衣料	9,180 (4.9%)	96.1%	96.1%	99.2%	92.9%
食品	155,217 (82.4%)	101.2%	101.7%	101.8%	101.7%
住居余暇	23,802 (12.6%)	103.6%	103.8%	109.2%	98.6%
合計	188,263	101.2%	101.7%	102.5%	100.8%

01
2026年度
上期の業績

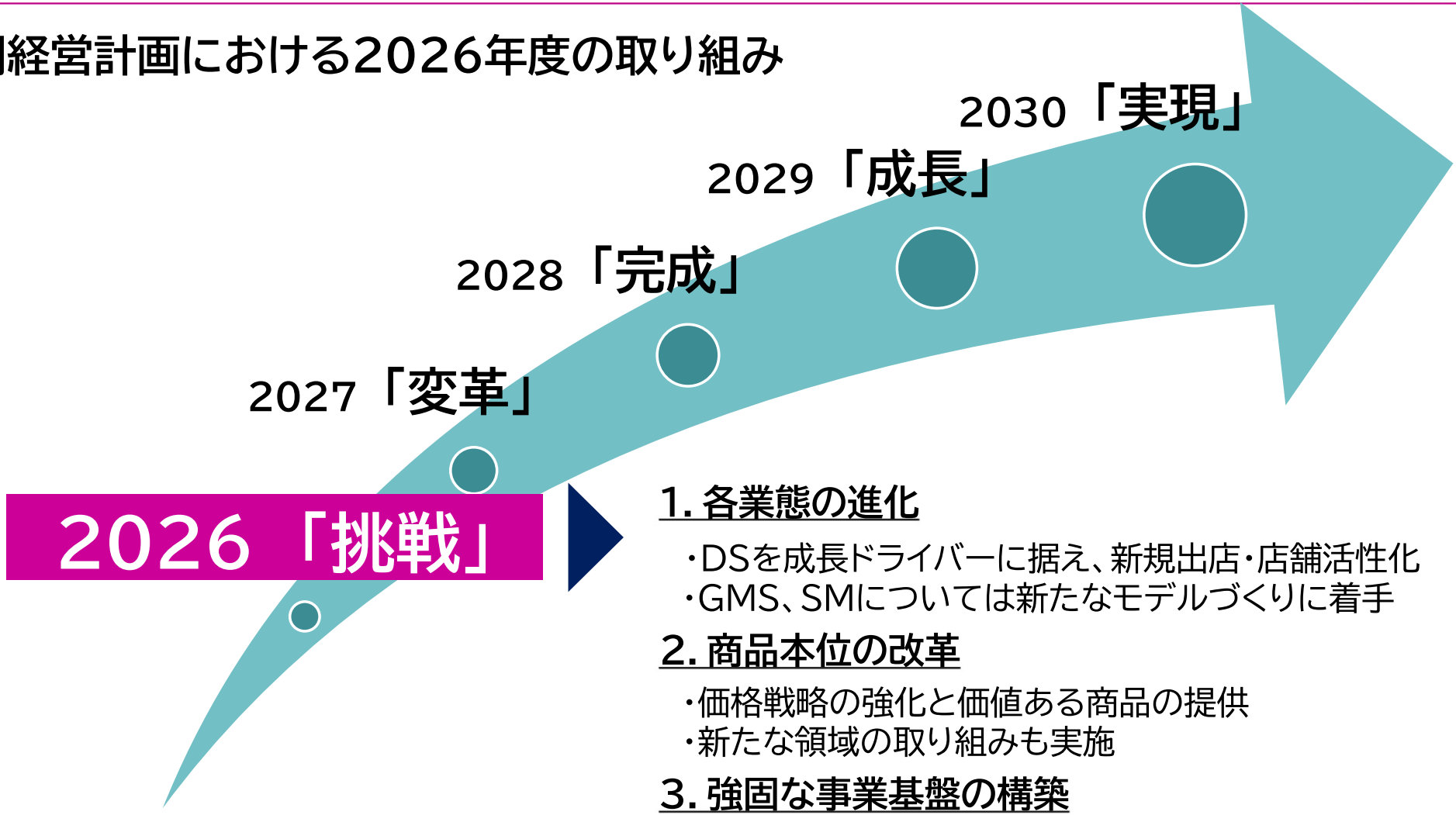
02
2026年度
上期の取り組み

03
2026年度
下期の取り組み

04
業績予想

2.2026年度　上期の取り組み

○中期経営計画における2026年度の取り組み



1. 各業態の進化

・DSを成長ドライバーに据え、新規出店・店舗活性化
・GMS、SMについては新たなモデルづくりに着手

2. 商品本位の改革

・価格戦略の強化と価値ある商品の提供
・新たな領域の取り組みも実施

3. 強固な事業基盤の構築

・DXの推進及びPC機能の拡充

2.2026年度　上期の取り組み

○各業態の進化　～DS　ディスカウントストア～ BIG

■「買えば買うほど安さがわかる」の追求　強いセールス×強い商品開発

セールスの魅力度向上

○現場主導による「店長　推しの1品」

・2年目を迎えて取り組みが浸透



前年同期比
137.4%

○最大セールス「ザ・ビッグデー」の徹底強化





前年同期比
106.8%

デリカ　商品開発力進化

・中食需要の拡大を背景に、弁当の開発に注力



弁当カテゴリー前年同期比 **109.1%**
→ DS事業全体の伸長に貢献

2.2026年度　上期の取り組み

○各業態の進化　～SM　スーパーマーケット～ MaxValu

■地域特性に応じた新フォーマットの展開

価値訴求型SM

・ルーラル（郊外）立地のモデル構築



マックスバリュ共和店　7/10（金）活性化

前年同期比　123.2%

価格強化型SM

・価格競争が激しいエリアで実験



マックスバリュ新発寒店　6/12（金）活性化

前年同期比　120.2%

2.2026年度　上期の取り組み

○各業態の進化　～GMS　総合スーパー～

■地域最適×ワンストップ×強い食・専門による、進化する総合業態への転換

館全体の魅力向上

○直営専門店一体の活性化

イオンモール旭川西
滞在型モールへのリニューアル





強い食・強い専門の実現

○GMSだからこそご提供できる品揃えの拡充





○専門性の高い売場づくり　多様ニーズにお応え





2.2026年度　上期の取り組み

○各業態の進化　～ディベロッパー事業～

■館の魅力向上の取り組み　店舗アセットの有効活用

新たなテナント誘致

○エリア初のテナント誘致

上期49店新規開店

北海道初出店
2店舗



イオンモール札幌発寒 ムニット

地域初出店
3店舗



イオンモール札幌苗穂 福恩麻辣湯

地域の交流地点としての役割

○文化、芸術の発表の場として店舗を活用

○人気キャラクター、作品関連の
ポップアップストア展開。好調に推移





2.2026年度　上期の取り組み

○商品本位の改革

■「価格と価値で選ばれる店づくり」を最優先　～食品～

価格訴求による来店動機創出

○「安い値」・「今週のおすすめ品」

・価格強化により、物価高騰下で一点単価横ばい
客数回復に貢献





○トップバリュ拡販

・ベストプライス

既存店
前年同期比 **107.2**%



独自商品の開発・展開による価値提供

・7月発売「道産鶏むね肉の本気！の塩唐揚げ」



・従来のもも肉使用「本気！の唐揚げ」と併売
唐揚げカテゴリー
前年同期比 **129.0**%と貢献

2.2026年度　上期の取り組み

○商品本位の改革

■成長領域商品の拡大　～衣料・住居余暇～

～衣料～

○高付加価値商品の提供

・リカバリーウェア
「EX セリアント」
健康需要を背景に
伸長



○話題性のある商品を導入

・人気マスコット「えふたん」
グッズを販売
・当社＆エスコン内ショップ
のみの**限定販売**



～住居余暇～

○「アジアンコスメ」展開店舗・品揃え拡大

・ドラッグストアとの
差別化商品を売り込み
・計画を上回って推移



○トレンド商品の品揃え

・品揃えの充実が認知され、
来店いただくきっかけとなる



2.2026年度　上期の取り組み

○強固な事業基盤の構築

■プロセスセンターを活用し、価値・鮮度の高い商品をご提供

石狩PC　設備増強



イオン石狩PC（6月：設備増強）
供給領域拡大と安全・安心の取り組み強化

マイクロPC　新規開設



マイクロPC（7月：新規開設）
既存店舗活用し供給スタート
⇒下期以降、順次供給先店舗数拡大へ

2.2026年度　上期の取り組み

○強固な事業基盤の構築

■北海道のどこに暮らしていても、身近にお買物できる環境をご提供

ネットスーパー 「ネットで楽宅便」

・7月より天売島・焼尻島へ配送開始
・離島含む**道内全世帯**へ配達範囲が拡大



無人店舗の拡大

・地域ニーズに応えた無人店舗の展開を推進
　上期**3**店舗オープン
・GMS店舗で製造したできたて惣菜も品揃え



2.2026年度　上期の取り組み

○強固な事業基盤の構築

■持続的な成長に向け、業務効率化による生産性向上で労働力不足・コスト上昇に対応

自動発注本格稼働

・自動発注システム 前期の実験を経て本格導入
　デイリー部門　97店舗
　発注にかかる人時　約5割削減



生産性向上の取り組み　継続実施

・スマホレジ導入推進
　累計18店舗に





・セルフレジ　95%超の
　店舗に導入済

・電子棚札導入推進
　導入店舗は80%超



2.2026年度　上期の取り組み

○強固な事業基盤の構築

■顧客体験の向上　～iAEON活用～

会員数増による好循環

約88万人に届く、道内有数の情報接点
北海道民の約6人に1人が登録





紙チラシから、必要な情報を届けるアプリへ

各種施策

○新規顧客獲得に向けた取り組み



・新規会員限定クーポン配信と
SNS活用による積極PR



○既存顧客への取り組み　～便利さ、お得さ～





2.2026年度　上期の取り組み

○サステナブル経営の推進

■地域・お客さまとともに進める環境・社会貢献活動

衣料品回収

・今年3月に店舗数・回収品目を拡大
（衣料品＋**雑貨・おもちゃ**）



・回収店舗数
33⇒**36**店舗へ

・回収量
約**12, 800**kg
前年同期の340%超



イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン

・地域貢献の輪を、さらに拡大







半期で**1,800万円超**の寄贈金額に
前年より伸長

来店動機につながる取り組み

01
2026年度
上期の業績

02
2026年度
上期の取り組み

03
2026年度
下期の取り組み

04
業績予想

2.2026年度　下期の取り組み

○各業態の進化　～DS～

■新店舗でのチャレンジ、業態変更の成功　強いデリカを育成

新規出店・業態転換

○ ザ・ビッグ千歳武道館前店（新店）
10月下旬オープン

・成功事例の踏襲＋新規取り組み導入



○ザ・ビッグ厚別店（業態転換）
9/11（金）オープン

・1日のDS最大売上更新



デリカのさらなる成長

・新店で米飯・寿司類の
新規商品デビュー予定
・上期同様に強いデリカ育成



2.2026年度　下期の取り組み

○各業態の進化　～SM～

■新たな業態のモデル構築、新規取り組みで収益拡大

新たな業態モデル【価格強化型】

○マックスバリュ苫小牧清水店　　9/26(土)オープン





オープン後5日間　前年同期比　164.1%

セールスの見直し

○新規取り組み「店長の太鼓判」
商販一体で売り込み強化



○恒例セールスの強化







「火曜市」「感謝デー」「フードデー」
売上最大化と客数伸長

2.2026年度　下期の取り組み

○各業態の進化　～GMS～

■総合スーパー業態のさらなる進化

「強い食」 GMSならではの品揃えの実現

・旗艦店として、イオン札幌平岡店10/17(土) リニューアルオープン
　こだわり商品の価値訴求　生鮮・デリカの構成UP





客層の拡大

・「好き」が集まる場所の構築
・若年層向け売場の構築



2.2026年度　下期の取り組み

○各業態の進化　～ディベロッパー事業～

■館の魅力向上の取り組み　店舗アセットを活用したさらなる価値創造

新たな顧客の創造

・ディズニーフラッグシップ東京
【イオンモール旭川西】 当社初の試み



©Disney

地域交流の場としての活用

学生が活躍できる
場の創出



地域住民主体の
ワークショップ



2.2026年度　下期の取り組み

○商品本位の改革：　～食品～

■価格の信頼を土台に、即食・時短・簡便への対応を強化

生鮮の惣菜化

水産惣菜



畜産惣菜



おいしさを追求し、即食・時短・簡便ニーズに対応

価格対応



価格競争力のあるベストプライスを
重点展開

2.2026年度　下期の取り組み

○商品本位の改革：　～衣料・住居余暇～

■北海道の厳しい冬からお客さまを守る　イオンでしか提供できない差別化商品

強力な価格訴求により集客強化





イオンの強みを活かし、商品をお手頃価格で提供

差別化商品の拡販



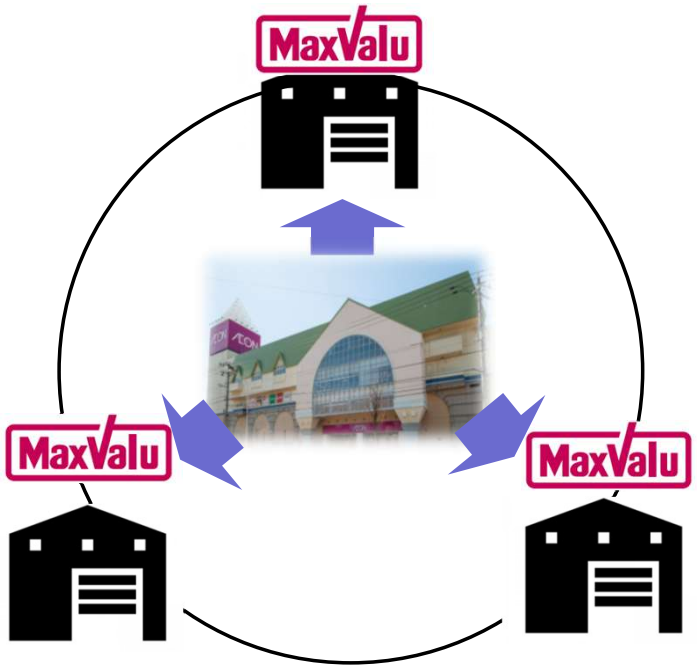
冬靴　クリフメイヤー
防滑性UP

2.2026年度　下期の取り組み

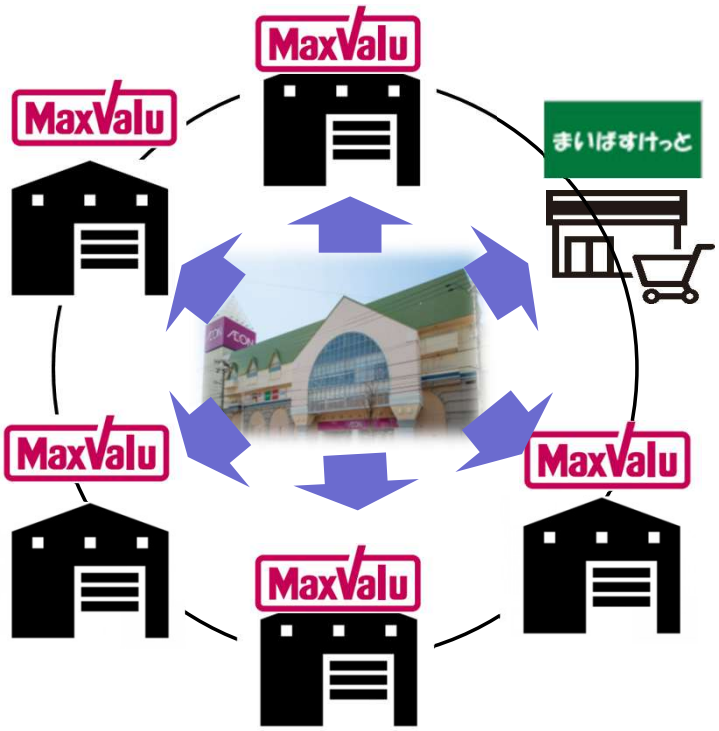
○強固な事業基盤の構築

■プロセスセンター　機能拡大

上期



下期



配下店舗数、取扱品目増

01
2025年度
の業績

02
2025年度
の取り組み

03
2026年～
中期経営計画

04
2026年度
の取り組み

05
業績予想

5.業績予想

単位：百万円/%

	2025年度 実績	2026年度 公表値	売比	増減率
売上高	380,063	392,000	100.0	+3.1
営業利益	8,332	8,700	2.2	+4.4
経常利益	8,028	8,200	2.1	+2.1
当期純利益	3,732	3,000	0.8	△19.6
配当/ 配当性向	16円/59.7%	16円/74.2%		

【パーパス】
地域のみなさまお一人おひとりにとってのMY LIFE STORE として、
北海道の暮らしに寄り添い、地域とともに未来をつくる。



Appendix

【参考】貸借対照表

	2027年2月期中間期			2026年2月期末	
	実績	構成比	増減	実績	構成比
流動資産	38,815	20.4	△1,534	40,349	20.9
固定資産	151,624	79.6	△1,509	153,134	79.1
資産合計	190,439	100.0	△3,044	193,483	100.0
流動負債	84,150	44.2	3,634	80,516	41.6
固定負債	34,059	17.9	△4,550	38,609	20.0
負債合計	118,210	62.1	△915	119,125	61.6
純資産合計	72,229	37.9	△2,128	74,357	38.4
負債・純資産合計	190,439	100.0	△3,044	193,483	100.0

【参考】キャッシュフロー計算書

	2027年度2月期 中間期	2026年度2月期 中間期
営業活動によるCF	△1,248	15,534
税引前中間純利益	223	1,542
減価償却費	4,096	3,776
減損損失	919	597
投資活動によるCF	△3,844	△9,275
有形固定資産の取得	△3,740	△10,393
差入保証金回収収入	7	1, 208
財務活動によるCF	3,770	△4,630
有利子負債純増減額	5,994	△2,405
配当金支払い額	△2,223	△2,225

【参考】既存店における客数・客単価・1点単価・買上点数前期比

	客数	客単価	1点単価	買上点数
衣料	98.2	98.2	95.8	102.6
食品	100.1	102.0	103.3	98.8
住居余暇	101.7	102.0	101.9	100.1
合計	100.2	101.7	102.9	98.8

単位：%

「収益認識に関する会計基準（企業会計基準第29号）」の適用影響を除いて算出